

令和4年(2022年)8月

## 市民福祉委員協議会資料

市立ひらかた病院 医事課

案件

### 新たな治療の開始などについて

#### 1. 政策等の背景・目的及び効果

市立ひらかた病院では、令和2年(2020年)7月に「下肢機能再建センター」を設置し、関節の痛みにより日常生活などに支障をきたしている方が、生き生きとした暮らしを取り戻せるよう、質の高い医療の提供に努めているところですが、その一環として、新たに変形性膝関節症による痛みへの対処療法として“膝関節の再生医療”を開始します。

また、令和4年(2022年)4月の診療報酬改定において、外来機能の明確化及び医療機関間の連携を推進する観点から、地域医療支援病院等の医療機関に紹介状を持たずに受診する場合の定額負担の額等が見直されることとなったため、本院においても紹介状がなく受診される患者の初診時及び再診時の定額負担の額について改定するものです。

## 2. 内容

### (1) 変形性膝関節症における再生医療の導入について

#### ア. 趣旨

膝の悩みの中でも加齢を主な原因として増える「変形性膝関節症」の治療については、大きく分けて、手術をしない保存療法と手術治療の2つの選択肢により行われており、特に保存療法における選択肢が少ないことが課題でした。今回の「膝関節の再生医療」は、手術に至るまでの新たな選択肢となるもので、患者自身の血液から有用な成分（血小板）を抽出して関節に直接注入することで関節の炎症の回復を図り、痛みの軽減とリハビリの効果を高めることが期待される処置です。（詳細は別紙参照）

この治療方法は、現時点において保険診療の対象外で自費診療であることから、「市立ひらかた病院の使用料及び手数料規程」において、当該診療にかかる使用料の額を定めるものです。

#### イ. 規定内容

再生医療

（仮称）変形性膝関節症へのPRP療法手技料・・・10万円

（仮称）変形性膝関節症へのAPSS療法手技料・・・30万円

## ウ. 実施時期

令和4年（2022年）11月（予定）。

※現在、厚生労働省に認可手続き中のため、実施時期については変更する可能性があります。

## エ. 導入に係る経費

委託費（申請代行）、備品購入費（機器等）を合わせ、約1,500千円を予定。

## (2) 紹介状なしで受診する場合の定額負担の見直しについて

### ア. 趣旨

200 床以上の地域医療支援病院では、令和 2 年（2020 年）度の診療報酬改定時から厚生労働大臣が定める額以上の定額負担を求めることが義務化されました。本年 4 月の診療報酬改定でこの定額負担の額が改定されたことに伴い、本院においても、紹介状がなく受診される患者の初診時及び再診時の定額負担の額について改定するものです。また、併せて、その診療に係る保険給付範囲等の見直しも行われるものです。

### イ. 定額負担の改定内容

区 分		現行の額	改定後の額
初診時	医科	5,000 円	7,000 円
	歯科	3,000 円	5,000 円
再診時(※)	医科	2,500 円	3,000 円
	歯科	1,500 円	1,900 円

(※) 「再診時」：当院で一定治療を終え、医師が地域の医療機関に行くよう患者同意の上で紹介状を渡したものの、同じ疾患で紹介状なしで当院に来院した場合。

## ウ. 保険給付範囲等の見直し

今回の診療報酬改定では、定額負担が見直された対象患者については、その診療に係る保険給付範囲と定額負担の額等が見直されることとなります。

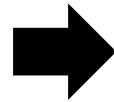
(例) 医科初診・治療費が1万円の場合の患者負担額

< 現行 >

患者が負担：3,000円	患者が負担： 5,000円
医療保険が負担：7,000円	

治療費 10,000円	定額負担 5,000円
-------------	-------------



< 改定後 >

患者が負担：2,400円 【3,000円－2,000円×0.3 (※)】	患者が負担： 7,000円
医療保険が負担：5,600円 【7,000円－2,000円×0.7 (※)】	

治療費 8,000円	定額負担 7,000円
------------	-------------

※自己負担割合に応じて変わります。

## エ. 実施時期

令和4年（2022年）10月1日から

### 3. 総合計画等における根拠・位置付け

- ① 総合計画 基本目標 健やかに、生きがいを持って暮らせるまち  
施策目標 8 安心して適切な医療が受けられるまち
- ② ひらかた病院 第二次中期経営計画



### 4. 関係法令・条例等

健康保険法

市立ひらかた病院の使用料及び手数料等に関する規程

## 変形性膝関節症とPRP療法について

### 1. 変形性膝関節症とは

変形性膝関節症は、膝のクッションとして働いている軟骨が加齢に伴いすり減り、炎症がおきたり関節が変形したりして痛みや腫れを生じる病気です。

### 2. これまでの一般的な治療方法

#### ①保存療法

関節を支える筋肉を鍛える運動療法と体重のコントロールを中心に、痛みを伴う場合は痛み止めの処方やヒアルロン酸注射、ステロイド注射による関節炎のコントロールなどを行います。

#### ②手術療法

軟骨のすり減りが進み、症状が重い場合には、骨を切って変形を矯正する「骨切り術」、人工関節に交換する「人工関節置換術」などの手術が行われます。

### 3. PRP療法とは

PRPは、Platelet Rich Plasmaの略語で多血小板血漿と訳され、再生医療の一つです。血小板は血液に含まれる成分の一つで、組織修復能力のある成長因子が含まれています。この血小板を遠心分離機で濃縮して採取したものをPRPといいます。PRPに含まれる成長因子などの働きにより、損傷した組織の修復や疼痛の軽減効果があることから、変形性膝関節症の治療にも使われるようになりました。

#### 4. A P S療法について

A P S療法は、次世代型 P R P療法ともいわれ、P R P療法よりさらに高濃度の成長因子と抗炎症性物質が含まれることから、従来法より効果の増強や持続などが期待されるといわれています。